

「あのとき、輝いていたと、俺は思うよ。」と言った時、「僕」はどんな気持ちだったろう。

3年生の授業を紹介します

教材名:『ゴリラの真似をした彼女を好きになった』
-人を好きになる(友情, 信頼)- (読み物教材)



…教科書の本文を簡単に紹介…

成人式の帰り道、プリントシール機で写真を撮っていた女子達の一人、小林さんから「これ、もらって!」と僕はシールを渡される。その一枚の表情を見て、僕は、中学校時代のことを思い出していた。

中学校2年生の時、僕たちは5日間の職場体験学習をした。僕の場所は「保育園」。僕と親友の川崎くん、女子の小林さんと山田さんの4人グループだ。保育園を選んだのは、仕事が簡単そうな事と、川崎くんが小林さんに憧れていて、同じグループを希望していたからだ。そんな不純な動機で選んだ僕たちは、開始後、その仕事内容の大変さに驚いた。

職場体験：最終日。

迎えの時間、一人の女の子が泣き出した。親の迎えがいつもより遅いらしい。先生は電話をかけに行き、部屋には、僕たち4人と子どもたちだけになった。女の子は泣き止まず、つられて他の子も泣き出しそうだった。途方に暮れていた時、小林さんが突然声をあげた。

「お姉ちゃんの顔を見て!」彼女は次々におもしろい顔をしてみせた。「やだー! 亜希子って、変顔が得意なものね!」と山田さんがゲラゲラと笑い出すと、子どもたちもつられて笑顔になった。

「お姉ちゃんは、ゴリラのまねも得意なんだよー。」小林さんがジェスチャーを交えてゴリラのまねをすると、女の子も笑い、他の子も大喜びしていた。

「すごい。そこまでするか……。」僕たちはあっけにとられていた。

「あれは見たくなかったなあ。イメージ変わっちゃった。」

帰り道、川崎くんは僕にささやき、以来、彼女に興味がなくなったようだったが、逆に、僕は彼女を意識するようになった。

数日後。

4人の中で、再びあの時のことが話題になった。「恥ずかしいから、やめてよ。思い出したくない。」と口にする小林さん。川崎くんも同じ言葉で冗談を言ったが、僕は黙っていられなかった。

「俺、小林さんのことすごいと思うよ。俺たちはあの時、何もできなかった。恥ずかしがらなくていいよ。あの時、輝いていたと、俺は思うよ。」

そして今日。

「今日はお礼が言いたくて。……あの言葉は私の宝物。時々思い出して、あったかい気持ちになれた。ありがとう。」彼女は女子の元へ戻っていった。中学時代、ゴリラのまねをした彼女を好きになった。彼女は今でも、まぶしいくらいに輝いていた。



ゴリラのまねをした小林さんを、「僕」はなぜ好きになったのだろう。

各グループごとに、和気あいあいとした雰囲気の中で、意見が出されていました。



人を好きになるということは、どういうことだろう。

- ★子どものために本気でしていた。
- ★自分のためではなく、他人のために、行動していたから。
- ★子どもを、泣き止ませるだけでなく、笑顔にしていた。
- ★勇気があるけど、子どものために頑張っていたから。
- ★周りの目を気にせず、全力で真似をしている姿がすごいと思ったから。

- ◎相手に対する尊敬の気持ちを持つ、またいいところに気付くこと。
- ◎外見だけでなく内面を知って、好きになること。
- ◎その人の優しさに気づくこと。
- ◎お互いに向上しあうこと。
- ◎互いに認めあうこと。

人を好きになるとは、どういうことかー 生涯普遍のテーマです。今回は校内の研究授業であり、生徒も教職員も共に学びました。